

図1 現地防疫センターの設置・運営



- (良かった点)
- 三角コーンによるゾーニング
 - 着脱方法の写真入パネル
- (苦労した点)
- 防護服、手袋等を管理
⇒ 限られたスペースを圧迫

【改善策】

動員者集合場所で防護服の着衣・手袋等を配布
⇒ 現地防疫センターの負担を軽減

図2 資材管理の不徹底



(苦勞した点)

- 資材置場がなかった
- 現地対策本部や農場に分散搬入

⇒ ・ 資材の過不足発生
・ 搬入時間のブッキングによる農場内の渋滞



【改善策】

資材置場、資材管理要員の確保と搬入時間の設定

図3 分業体制、連絡体制の構築

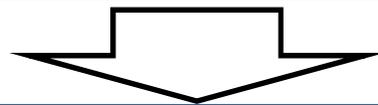


(良かった点)

- 動員者と自衛隊の協力作業
自衛隊: 殺処分
動員者: 処分鶏の搬出
- 速やかな防疫措置の完了

(苦勞した点)

- 家畜防疫員への作業の集中
- 連絡体制の不統一

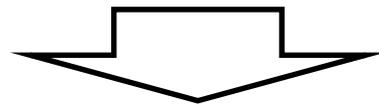
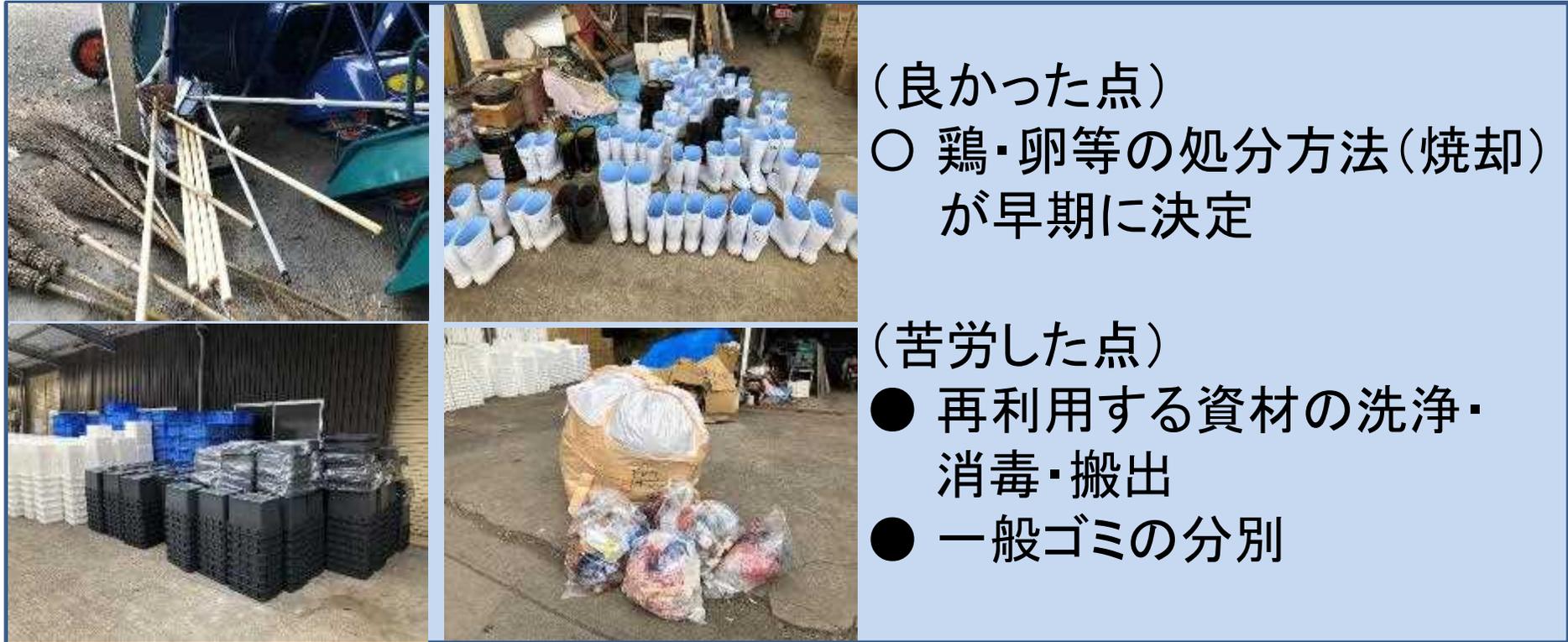


【改善策】

分業体制の検討

連絡体制の一元化、共有情報の見える化

図4 防疫措置完了後の対応



【改善策】

必要以上に資材を持ち込まない(→②資材管理の徹底)
準備段階から、一般ごみの廃棄方法を検討

図5 その他(消毒ポイントの運営時間)

制限区域内の1農家が、12月14日に出荷

※ 制限区域外の食鳥処理場への出荷を目的とした搬出制限区域内の農場の家きんの移動(例外協議)

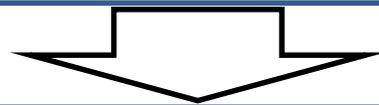
→ 指定の消毒ポイントを通過し消毒する必要あり

指定の消毒ポイントの運営時間: 9~17時

平時のブロイラー出荷作業 : 20~24時

消毒ポイント運営時間に合わせて、作業体制を変更

→ 人件費の増加(農家による自己負担)



【改善策】

まん延防止措置を図りつつ柔軟な対応を検討

⇒ 制限区域内農家の負担軽減